

創立40周年記念事業

「有害生物解体新書」の発刊にあたり

社団法人神奈川県ペストコントロール協会は、2010年創立40周年を迎えました。この40年を振り返れば、ペストコントロールの基礎技術の確立を目指した模索の10年、殺虫剤の変遷の中でプロ化に努力した10年、営業力・組織力・技術力など得意分野を柱とした差別化の10年、そしてIPMを基本としたイノベーションペストコントロールへの対応に加え、社会が全ての企業に求め始めたCSRへの取り組みが必要となった10年といえます。

言い替えればこの10年は、発生時の緊急対応型から、社会が健康で安全な生活の実現の為に平時対応能力を求めはじめたものと言えます。

それらの社会のニーズに応える為、数年前から「有害生物解体新書」の作成に挑みました。

私達の周りには、たくさんの文献・図書・図説等があります。しかし私達ペストコントロール技術者が本当に利用しやすい図鑑は自分達の手で作らなければと考えたのです。

昆虫類の各成長令ごとの写真や雌雄及び各器官（パーツ）の拡大写真を多く掲載し、同定や異物混入などの調査・検索にも役立つ私達の図鑑作りへ挑戦した、第一回の成果がここにあります。

今後、多くの昆虫類や動物を加え充実させる予定です。そして神奈川から発信したこの「有害生物解体新書」が持続的なペストコントロール業界の発展に大きく貢献できれば幸いです。

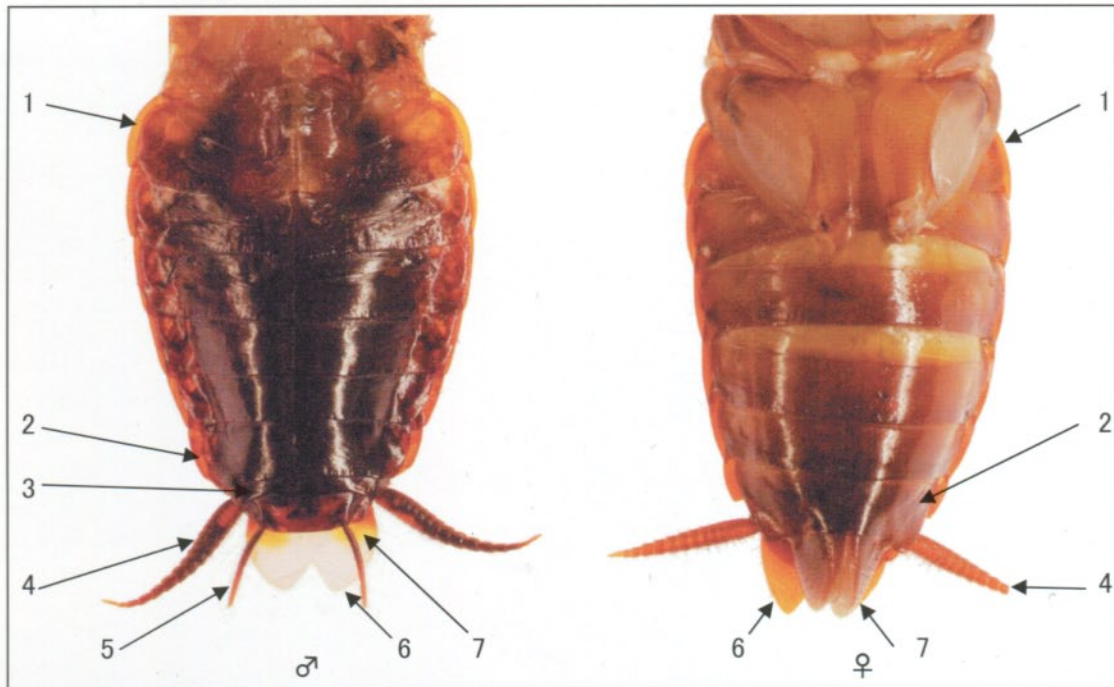
末尾ながら「有害生物解体新書」の作成に努力を惜しまなかった協会40周年プロジェクト委員会の皆様と、お力をお借りしました先生方に感謝の気持ちを捧げます。

社団法人神奈川県ペストコントロール協会

会長 山口 健次郎

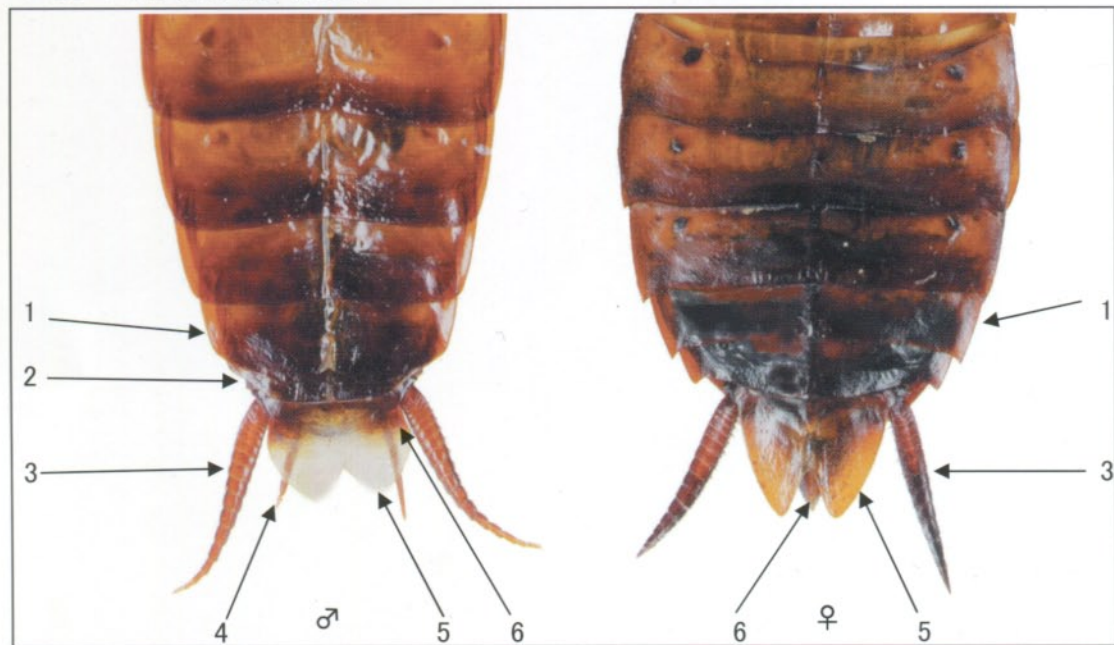
ワモンゴキブリ成虫腹部

ワモンゴキブリ腹部(腹面)



1: 第2腹節腹板 2: 第7腹節腹板 3: 第8腹節腹板 4: 尾肢
5: 尾突起 6: 上生殖板 7: 下生殖板

ワモンゴキブリ尾端部(背面)



1: 第7腹節腹板 2: 第8腹節腹板 3: 尾肢 4: 尾突起
5: 上生殖板 6: 下生殖板

昆虫の腹部は基本的に11節から構成され、第7節以降の節は生殖器官や産卵管など体内に取り込まれて見えないものも多い。
成虫♂の尾部に下生殖板より派生した1対の尾突起を持つが、成虫♀の尾部には尾突起はない。雌雄共に尾部に尾肢という感覚器官を持つ。この器官は空気の振動や風圧の微妙な変化を捉え、敵からの回避行動を司る重要な働きを持つ。

ワモンゴキブリの脱皮

①



⑤



②



⑥



③



通常9～13令を
経て、羽化する

今回の脱皮に
要した時間は
約20分間

⑦



④

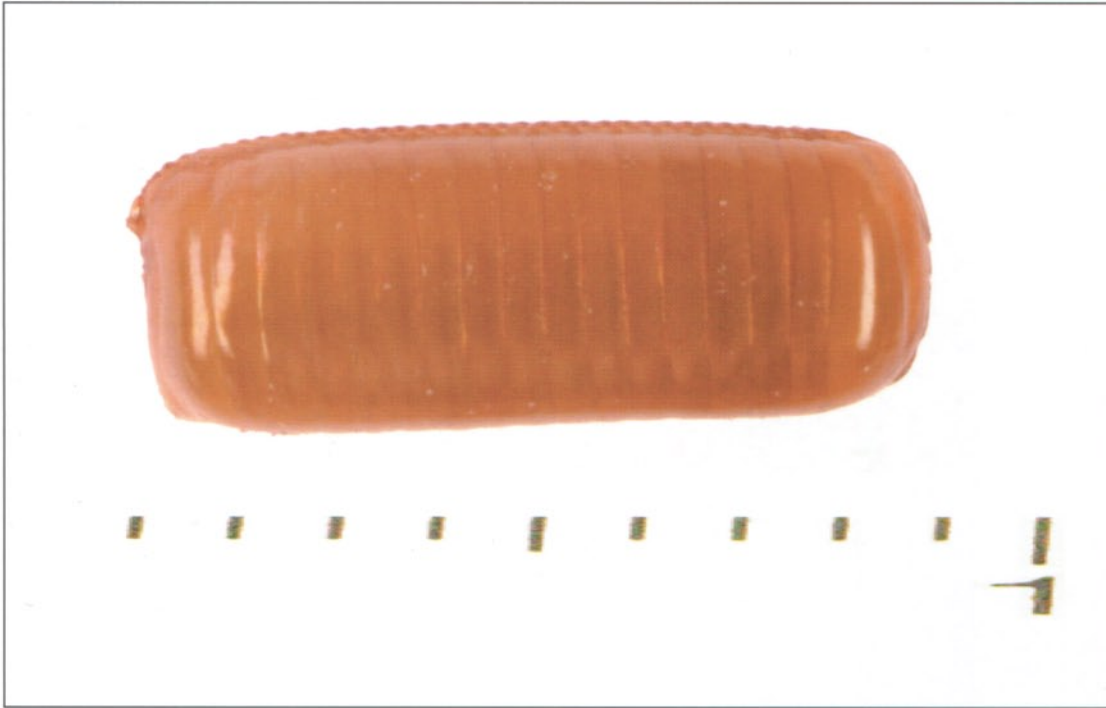


⑧



チャバネゴキブリ卵鞘

卵鞘外部



雌は孵化直前まで卵鞘を尾端につけて過ごす。
一生のうち、3～7個程度の卵鞘を産む。

卵鞘内部



卵鞘内部には30～40個程度の卵が入っている。